

記載者（国立大学図書館協会）

• 学術情報流通の推進に向けた取組み

- 研究データ管理をはじめとしたオープンサイエンスへの会員館の取組みを支援するため、アドボカシー活動、人材育成、先導的事業の推進を柱とした行動計画を策定した。
- 学術雑誌オープンアクセス(OA)化の動向に関する情報を収集し・発信するとともに、大学執行部層等と課題を共有して解決策を議論するシンポジウム等を企画・実施する。

• 取組みを進める上での課題

- オープンサイエンス、OAの推進に貢献しているJPCOAR及びJUSTICEの安定的な運営体制に必要な財政的、人的資源の確保は、国大図協各加盟館の運営にも関わる大きな課題。
- 研究データ管理や学術雑誌のAPCを含む新たな契約モデル導入など、各大学で図書館が他の部署や研究者と連携し取り組むための体制づくりが進んでいないのが課題。

• 取組みを進める上で、他のステークホルダーと連携できること、他のステークホルダーと連携できること等

- 国立大学協会と連携し、研究データ管理への対応や学術雑誌OA化の動向について各大学執行部層へ情報提供や制度作りの働きかけをするとともに、国等に対して財政支援等の働きかけを行う。
- 日本学術会議と連携し、学協会や研究者層に対して研究データ管理等オープンサイエンスへの取組みや学術雑誌OA化の動向に関して課題を共有して議論を進める。

サンプル（SPARC Japan）

• 学術情報流通の推進に向けた取組み

- 国際的なイニシアティブとの連携を通して、オープンアクセスを推進する役割を担っている。その具体的な活動として、arXiv・CLOCKSS・SCOAP3の各活動を支援するべく、国内関係機関への周知や支援（拠出金）の取りまとめを行っている。また、米国SPARCと2006年に覚書を取り交わし、「SPARC Japan」の名を冠した諸活動を行っている。

• 取組みを進める上での課題

- arXiv・SCOAP3については、利用頻度や高い機関や論文の投稿実績のある機関からの支援が、一部得られていない。
- 米国SPARCとのMOUでは、「団体間の密接かつ日常的なコミュニケーションが不可欠である」と記載されているものの、具体的な連携までに至っていない。

• 取組みを進める上で、他のステークホルダーと連携できること、他のステークホルダーと連携できること等

- 学術情報のオープン化に係る国際的な動向や支援について、各機関で関係コミュニティ（特に研究者コミュニティ）に対するアドボカシー活動をしていただけないか。あるいは、一緒に開催する機会も設けられないか。
- SPARCやSPARC Europeが行っている活動を分析し、連携の在り方やSPARC Japanの活動を検討する機会を設置してはどうか。